

岡崎海軍航空基地と戦時中の生活

安城北部小学校5年 稲垣拓真

きっかけ

祖父から、「太平洋戦争の時、安城には2つ飛行場があって、その1つが拓真君の家(今本町)の近くにあったんだよ。」と聞き、岡崎海軍航空基地がこの地域にあったことを知った。基地のことや、戦時中の生活について詳しく調べたいと思った。

〈岡崎海軍航空基地とは?〉太平洋戦争末期(昭和18年)現在の安城市(橋目町・尾崎町・柿崎町・宇頭茶屋町)、岡崎市、豊田市にまたがる地に、広さ420ヘクタールの航空基地がつけられた。戦況悪化により軍を建て直すため、戦闘機塔乗員と整備士養成の場となった。(以下、岡崎航空基地)

〈予科練とは?〉『海軍飛行予科練習生』の略称。14才〜17才の少年が全国から試験で選ばれた。基礎訓練(学問と厳しいトレーニング)をした後、陸上練習機操縦・射撃の訓練を受け、戦闘機塔乗員(パイロット)になる制度。

方法

- ①図書館で岡崎航空基地についての資料を探す
- ②基地跡や関係のある場所を訪ねて写真を取り、調べる
- ③戦時中を知る人を探し、話を聞く

1 開拓記念碑 予科練之碑

開拓記念碑



場所:橋目霊園

(安城市橋目町宮東199)

元は防空監視塔として使われていたものが、1995年(昭和30年)に開拓記念碑として今の場所に置かれた。かつては第一航空基地西側の本部横にあつたものと言われている。コンクリート製で、直径1.5m、高さ5.4m(元の高さは不明)。骨組みに鉄道のレールが使われている。四方向(4ヶ所)にのぞき窓があり、南東機の見張りをしていた。



分かったこと①

- ・石碑や記念碑をこの場所に置くことで、この地に航空基地があったことや、若い人々が戦争に参戦するために自分の人生を国にささげて訓練を受けていたことを、戦争を知らない世代にも伝えられることができる。
- ・当時の防空監視塔を使用しているため、歴史をそのまま残すことができている。

岡崎航空基地位置図



予科練之碑

場所:熊野神社入り口付近

(安城市尾崎町亥ノ子19)

戦争が連年につれて飛行訓練生の養成が急がれ、全国十数ヶ所のうちの1つが岡崎航空基地であった。全国各地から毎月入隊し、日々訓練を重ね、各地の実戦航空隊へ乗立っていた。同志が亡き戦友の墓をなくすため、今後たれることのないよう基地跡近くの熊野神社境内に借りて昭和48年に建立した。



できごと

1941(16) 太平洋戦争が始まる(17/8)

1942(17) ミッドウェー海戦の大敗
岡崎が実戦用航空隊の予定地として計画される
(半旗制の土地の買収・住民の強制退去が行われる)

1943(18) 基地完成

1944(19) 2月:河和軍航空隊・岡崎分隊1隊として発足(のちの第一航空隊)
4月:岡崎海軍航空隊として独立開隊
整備科練習生の教育の場となる
※第一岡崎海軍航空隊への入隊者数
第一隊5月781名、第二隊6月891名
第三隊7月680名、第四隊8月761名
第五隊9月779名、第六隊10月773名
第七隊11月707名、第八隊12月624名
→計5397名

同4月:基地北側に上郷分隊1隊が設置(のちの第二航空隊)
・整備科練習生の教育の場となる
※第二岡崎海軍航空隊への入隊者数
第一隊5月511名、第二隊6月511名

9月:名古屋海軍航空隊の岡崎分隊1隊が発足(のちの第三航空隊)
・陸上練習機操縦の教育が始まる

1945(20) 2月:戦況の悪化により、第二航空隊が連合軍に降参し、降参した。3月:限られた燃料の確保のため、練習生の待機(休戦)が原則となる。前年の本土上陸に備えて、第一航空隊が連合軍に降参し、降参した。

4月:米軍が沖繩本島上陸

5月:第三航空隊が米軍に降参し、降参した。

6月:沖繩戦の日本軍全面降参
・第三航空隊が特攻隊に降参し、降参した。
四国の西条、近畿の宇治(宇治)→一歩退却を待機

7月:第一航空隊が降参し、降参した。

8月:広島に原子爆弾投下(8/6)
長崎に原子爆弾投下(8/9)
日本のポツダム宣言受入(8/15)
終戦の日(8/15)

10月:岡崎航空基地が米軍管理下におかれる(約半年間)

1946(51) 4月:農林省の管理下におかれ、農地開拓事業が始まる。

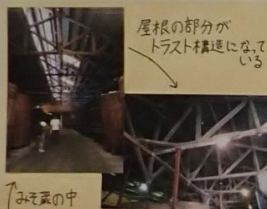
2. みそ蔵として使われる格納庫

場所：のだみそ株式会社
(豊田中村(家西町)山6)

戦時中、のだみそ「建物」となり
に第三航空基地が作られた。戦後、
農地開拓が始まり、戦後まぬがれた
格納庫や兵舎を再利用してみそ蔵として
再利用。今も使われ続けている。

・蔵の大きさ：幅15m×奥行き30m
高さ25m×奥行き50m

・旧日本軍が作った木造建築
・トラス構造(細い木材を三角形の
形に組み合わせた強くて安定した骨組み)
→柱を太く立ってなくても、大きな
屋根を支えることができる。
・屋根は、金鉄板の上にシート(軽量
で耐震性が高い)を敷いていた。



屋根の部分が
トラス構造になっている



みそ蔵の中

〈旧代表社長さんの話〉

・終戦後、アメリカの進駐軍が来て、
うつした基地の建物が、色んな人の手
渡りあって、この地に戻って来た。その
写真から当時の様子を知らることがで
きるようになった。
・基地の風景、戦後当時の写真の中には
木製の操縦訓練用シミュレーターが
うつっているものもある。アメリカ軍の人
はこれを見ておどろいたと思う。『ミカベ
ドレーン』と写真の下の方に書かれている。
・かつてこの地で訓練生だった方が訪
ねて来て、当時の話をしてくれることがある。
突撃訓練生では、自転車をおもいやり
こいで、ワラの山に突っ込んで行く、
というもったそうだった。
・終戦を迎えて、これまで生きてみえる
方の中には仲間を戦争で失った方もいて、
ずっと思い悩みながら生活されている。
当時の社会背景を理解しながら、その方
の気持ちに寄りそうことが大切。



分かったこと②

・終戦直後は物がなく、使える物は何でも
使うということ。格納庫や兵舎をみそ蔵として
再利用されたのがスタートだったが、かつて訓練
生であった人が訪ねて来たり、当時のことを知ろう
と学びに来る人にとって『戦争当時の残し、
伝える場所』としての役割を果たしている。
・社長さんも、みそ蔵としての建物を大切に
管理・保存しながら戦争について伝えることを
積極的に行っていた。

3. 戦争経験者の話

8月13日、今本町老人会の柘植さん
(57年生まれ)・稲垣さん(51年生まれ)
に聞いた戦時中・戦後の話

①戦時中の疎開

上御飛行場から4〜5機の中型
戦闘機が今村の白山神社に置
かれていた。布がかぶせてあって近づけ
ないが、周りに遊んでいた。

②戦時中の食事

配給されたサツマ芋の粉やトウモロ
コシの粉で団子やだんご(お好み焼き
のようなもの)を作って食べた。家で育てたサ
トウ芋もおやつに食べた。

③学校での訓練

パラスーツで降りてくる敵を竹やりで
つく訓練を1〜6年生まで全校生徒が
やった。学生でもワシ工業(東栄町)へ
手伝いに行ったり、防空ずきんを作った。

④終戦をむかえた思い

絶対に勝つと信じていたのに終戦を
知らされる昭和天皇の言葉を聞いてとても
悲しい気持ちだった。

⑤戦後の様子

アメリカ軍がジープで通った時にコ
レートを残したり、基地に残された残飯の
中に缶詰や缶があった。甘い物がなくて、
エビス薬局でズルタン(人工甘味料、
砂糖の200〜300倍の強い甘みだが、薬性
や発がん性が確認されて使用禁止)
やサッカリンを買って使っていた。とにかく
甘い物が欲しくて、無味時代だった。
中学生になって母親がどこからか
入れた日本軍の軍服で制服を作ってくれ
た。茶色の布だったので、黒色に染めて
くれたのを覚えている。



柘植さん 稲垣さん

分かったこと③

・戦時中の生活では、食べ物が少ない中
でも、この安城市北部の地域では農作物が
とれたので、まだ食べられるものはあった。
しかし、甘い物は身に入りづらく、人々は甘い物
をととても求めていた。
・学校生活でも戦争に関する内容や訓練
が取り入れられていて、社会全体が戦争に
関係ついていた。勝つためにがまんが当たり前の
世の中だった。

まとめ

太平洋戦争末期の約2年間とい
う短い期間の中で、軍隊は何とかな
つて直そうと、この地に基地を
つくって若い兵士を育てようとした。
一般の人たちも戦争に勝つためと、
生活が苦しい中でもたえていた。
それでも戦争には負けてしまった。
戦後81年を迎え、戦争経験者も本
当に少なくなっている。当時に関係
するものを残すことで、後世に伝え
られる。戦争について学んだり、話を
聞いた人が次の世代に伝えつなぐ
大切な役割がある。

おわりに

この研究をして、14才〜17才の若い人
たちが、今僕が住んでいるこの地域
で戦争のための訓練を受けて、戦い
に行ったことを知っておく。自分
と同じ年の子どもでも学校生活の
中での訓練や手伝いで苦労が多か
ったと思う。今のくらしとは、考え方も価
値観もちがいが過ぎて、想像するのが難
しいと感じた。

「絶対に戦争をしてはいかん!!」と、柘植さん
が声強く言っていた事が心に残っている。
柘植さんはこの思いを、僕に未来につな
げて欲しいと言われた。戦争経験者から
直接話を聞いた一人として、僕はこ
の歴史としてあったこと、戦争による
悲しみを伝えていきたい。

参考にした本・資料

- ・鈴木丹 「岡崎基地と海軍航空隊」
安城市歴史研究第24号 1998年
- ・神谷新一・川合正治 「第一岡崎航空
隊と開拓史」 安城市歴史研究第25号
2000年
- ・神谷友和 「戦争の語り部たちその一」
安城市歴史研究第25号 2000年
- ・北小子ども風土記 「岡崎海軍航空
基地」 安城市立安城市北部小学校 2008年
- ・ふるさと志貴 「岡崎海軍航空隊(予
科練) 安城市立志貴小学校 1979年
- ・新編安城市史 通史編 近代
安城市 2008年

お世話になった人

- ・今本町老人会 柘植昭さん
稲垣登治さん
- ・のだみそ株式会社
野田清衛社長さん